

設 立 趣 旨 書

1 趣旨

わたしたちは、森林とかかわる暮らしを通じて、わたしたちの社会と自然環境のあり方を考える有志の組織として「特定非営利活動法人どんぐりネットワーク」を設立します。

わたしたちが目指すのは、わたしたちの暮らしが、森林をはじめ、多くの生きものたちを含む自然の再生を保証し、わたしたち自身の社会の再生を保証する世界を実現することです。今日まで、人の社会は、世界のあらゆるところで、都市化した社会として増殖しつづけてきました。いまや、日本の山奥にまで、社会の都市化が浸透し、豊かな自然環境は残っていても、そこにはもはや全国一律の経済性・効率性に基づいた社会しか存在しません。目の前に、ありふれてはいてもすばらしい自然が存在していても、それに気づかず、経済的な価値以外は見えなくなってしまった人たちが増えつづけているのです。個人ではなんともしがたい地球環境問題も、このようなわたしたちの日々の暮らしの延長線上にあると言えます。

また、わたしたちの社会は、自然環境の劣化という問題のみならず、最近のいじめ問題や少年犯罪のように、社会の再生の根幹にかかわる子どもたちの世界の荒廃という大きな問題に直面しています。これらの問題は一見すると自然環境問題とは関係ないように見えますが、システムの再生という視点からは全く同じものと言えます。人の社会を構成する個人は、生まれてから死ぬまで、みなゼロから学習していく過程を繰り返さなければなりません。その重なりと連続が人の社会を構成しているわけですが、その社会が自然生態系という人の社会を含む多くの生きものたちの社会を破壊しつづけているということは、人の社会そのものの問題でもあるのです。もう一度、生物社会の再生を保証する世界を取り戻すことが必要なのです。

それは特別に難しいことではありません。たとえば、わたしたち、香川では、周辺にまだ多くの緑が残されています。その森林をはじめとする緑とのかかわりをとおして、その試みを始めましょう。わたしたちの祖先は、生活の必要に迫られていたとはいえ、日々の燃料や生活必需品を森林などから得ていましたが、そのような時代には、意識せず自然とのかかわりを持ち、その中で、自然の再生のために必要な知識と経験を得ていたのです。しかし、現代の子どもたちは、たとえ周りに豊かに残された緑の自然があったとしても、それらとどれだけふれあう機会をもっているでしょう。そこには、そうしてしまった大人たちの社会の責任があります。もう一度、素朴な自然との交感の場を

持ち、その経験をとおして、人と自然の社会を再生していくことができると考えます。

わたしたちは、その取り組みを「どんぐり銀行」をはじめとして森と親しみ森とかかわるさまざまな活動をとおして実践します。ただ、どんぐりを拾って預ける、という誰にでもできることを、森林を再生することに結び付けるのが「どんぐり銀行」ですので、森とのかかわりを失った現代人にとって、そして、そんな社会の中にいる子どもたちにとって、このシステムは森とかかわる身近な一歩となりうるのです。そして、今は手入れされなくなった里山や、ともすると忘れがちになる水源の森についても、自分たちで汗をかきながら、楽しみながら森づくりをすることによってかかわりつづけていきます。

現代のわたしたちは、昔の人たちよりも、自然や森林に関する知識については、格段の質と量を持っていると言えます。しかし、実際にじかにふれあう経験は、格段に少ないと言えます。かつて、わたしたちの先達が、暮らしの中で自然とかかわることで生活文化を醸成してきたように、現代の生活の中で新しい自然とのかかわりの中から、自然とうまくつきあう現代の生活文化を創造していかなければなりません。その中で都市と山村の共生という問題も解決されてくるはずです。

「特定非営利活動法人どんぐりネットワーク」は、一人ひとりの暮らしの中から、森林をはじめとした自然とのかかわりを探っていきます。大人も子どももそれぞれの立場から気軽に参加でき、その関心と交流を深めていける活動を展開します。多くの皆さんのそれぞれの立場からの参加を期待します。

2 申請に至るまでの経過

どんぐり銀行の誕生

「どんぐり銀行」は、平成4年10月に香川県造林協会の主催ではじまりました。当初は、1年間の予定で、どんぐり預金の受付、春の払戻し、森林公園での植樹を実施する計画でした。しかしながら、大変な話題となり、結果的にシーズン終了時には、預金者は1,363人にのぼり、今後の活動の継続への期待が寄せられました。その結果、平成5年度からは、香川県（林務課）においても、県の事業として「どんぐり銀行みんなの森づくり推進事業」が開始されました。香川県造林協会としての事業も継続され、官民協同の活動として展開されることとなったわけです。

この結果、県内各地での植樹行事の開催や森の観察会などが数多く実施され、苗木生産用やムササビの給餌用のどんぐりの提供（どんぐり融資）、森や自然とかかわる生活文化の祭典「森の文化祭」の開催など新たな活動も行われるようになりました。

どんぐりスタッフ・どじょうクラブの誕生

「どんぐり銀行」の活動の範囲が広がるに連れて、県事業としての領域を越えた、幅広い柔軟な活動が企画されるようになり、その運営や財源として、もっと自由に活動できる体制が必要とされるようになりました。

そこで、平成6年の4月に、自主的な運営に向けて、人的な対応としての「どんぐりスタッフ」、独自の財源確保を目的とした「どじょうクラブ」の募集が開始されました。特にどんぐりスタッフは、その後、参加者により「どんぐりボランティアネットワーク」と名称を改めました。平成10年4月の段階では「どんぐりボランティアネットワーク」の登録者は155人、「どじょうクラブ」の支援者は、個人会員112名、団体会員は44名にのぼっています。

大川村との出会い、そして交流の森づくりへ

平成5年の1月に「どんぐり銀行」は、和歌山県の高野町へ苗木用のどんぐり融資を初めて行いましたが、この新聞報道をみて、高知県の嶺北地域からも、どんぐり融資の申し出がありました。このとき、大川村森林組合にどんぐり融資をしたのがきっかけで、交流の森づくりが始まることとなります。この融資の際に、大川村の方がこれをきっかけに交流に発展することを期待しているという話を伝え聞き、「どんぐり銀行」の活動も3年目に入り、ボランティアスタッフも充実し始めていたこともあって、水源地域での森づくりを行おうという計画をたて、平成6年7月に大川村森林組合を通して話しを始めました。

その後、同年8月の末にスタッフが大川村を訪れ、具体的な計画がまとまり、同年9月に計画を公表しました。おりしも、平成6年の夏は20年ぶりの大渇水となり早明浦ダムも初めて干上がるという事態となっていました。県民は早明浦ダムの貯水率に一喜一憂し、ダムの犠牲となった大川村の悲劇が新聞等で改めてクローズアップされていたわけです。このような状況の中での交流の森づくりの発表は、一躍、ボランティアグループを有名にし、「どんぐり銀行」活動のステータスを高めることとなりました。

平成6年の12月には、一般参加を得て、大川村を訪れ、交流の森づくりの協定書かわし、平成7年の春からは、ボランティアスタッフによる地拵え、5月には155人の県民の参加により初めての植樹を行いました。その後も、下草刈りや、引き続きの植樹を継続し、この活動を通じた地元の方々との交流も続けられています。

里山保全活動のはじまり

どんぐり銀行は、どんぐりのなる木が、里山の樹種であることから、また、香川においては現実には、植樹をしなければならないような禿山はほとんどなく、一番問題となっているのが、都市近郊林の放置と開発問題であることから、当初から、里山の保全が大きな目標の一つになっていました。

そのために、どんぐりを通じて、里山を中心とした森林への関心を呼ぶことに努めてきましたが、実際に、作業としての里山の手入れを始めることになりました。まず、最初は、森林公園の一部で始められたわけですが、具体的には、平成6年11月に、県外で里山整備を行っている方々を招待して開催した「どんぐりサミット」がきっかけとなっています。この後、神奈川県「きずなの森」や広島県「ひろしま人と樹の会」などと交流をしながら、県内での里山活動のフィールドを増やしてきました。現在では、三木町、高松市、坂出市、仲南町の4箇所を中心に、通年にわたって雑木林の手入れと各種の森を楽しむ活動が展開されています。

ドングリランドの建設へ

「どんぐり銀行」は、その活動当初から、ただ単に森を知るだけでなく、ただ汗を流して森の手入れをするだけでなく、森づくりをしながら楽しく過ごすという目標にしてきました。森づくりは長い時間を必要としますが、森と付き合うには何よりも楽しくなければならぬと考えたからです。

そのため、単に森で過ごすだけでなく、森に足を運びたいくなるような各種のソフト展開をしてきましたが、特に、子どもたちを中心に家族で休日に森に足を運ぶようにするため、ただそこにある森を、特別に開発することなく、森が森のまま楽しいテーマパークになるような試みを始めました。それが「ドングリランド」の建設です。

これは、公淵森林公園西植田地区をフィールドに、県民参加により、そのプランづくりから整備、管理までをやってしまったというもので、平成9年3月には「ドングリランドの森づくりプラン」が策定されました。現在、このプランに基づき、実際の森の手入れが行われていますが、ソフト展開としては、各種の団体の協同による「どんぐり学校」の開催、「どんぐり友便局」と「森のポスト」、どんぐり銀行の払い戻しとしての「ドングリショップ」などが実施されています。

森の国への窓口

どんぐり銀行活動は、現在も県を始め各種の団体の協同により実施されていますが、その活動の企画と運営は、ボランティアが中心となってきました。最近のアウトドアブームもあって、里山を中心とした野外活動は年々盛んになりつつありますが、まだまだ森との付き合い方に不案内な人やそのきっかけをつかめない人がいます。特に、子どもたちに、自然の中での実体験を提供することが重要になっています。「どんぐり銀行」はオールラウンドな森との付き合い方を提唱していますが、決してこれが全てではありません。何よりも、子どもたちを中心とした日々の生活の中から森に出会う、「森の国への窓口」としての役割を果たしていくことが重要と考えています。

より幅広く充実した活動を目指して

これまで、その自主性を高めてきた「どんぐりボランティアネットワーク」の組織をさらに確かなものとするため、特定非営利活動法人への移行を目指して、平成10年7月5日に「どんぐりボランティアネットワーク」を発展的に解消し、「どんぐりネットワーク」を設立し、組織を整備しました。

このほど、特定非営利活動促進法が施行されたことにともない、さらに、体制を整え、同法に基づく法人として「特定非営利活動法人どんぐりネットワーク」を設立し、これに移行して、一層、幅広く、充実した活動を行おうとするものです。

これを機会に、より多くの有志の参加を得て、森と付き合う暮らしを広めていきたいと考えています。

平成11年3月28日

特定非営利活動法人どんぐりネットワーク
設立発起人代表

香川県高松市栗林町2丁目8番10号
木村 等